

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ 大会報告

国スポ・障スポ大会・観光振興対策特別委員会 資料1-1
令和7年(2025年)12月16日(火)
文化スポーツ部 国スポ・障スポ大会局



I. わたSHIGA輝く国スポ・障スポ 大会概要

第79回国民スポーツ大会（わたSHIGA輝く国スポ）

会期前① 令和7年(2025年)9月6日（土）～9月15日（月）

会期前② 令和7年(2025年)9月21日（日）～9月25日（木）

本会期 令和7年(2025年)9月28日（日）～10月8日（水）

正式競技37競技、特別競技1競技、
公開競技7競技、デモス26競技

来場者数 のべ **約60.4万人**

選手監督等 約 9.6万人
大会関係者 約 8.9万人
観覧者等 約41.9万人

※第78回大会 約51万人



第24回全国障害者スポーツ大会（わたSHIGA輝く障スポ）

本会期 令和7年(2025年)10月25日（土）～10月27日（月）

正式競技14競技、
オープン競技4競技

来場者数 のべ **約8.2万人**

選手監督等 約2.4万人
大会関係者 約3.2万人
観覧者等 約2.6万人

※第23回大会 約7.8万人



2. 競技成績

★国スポ 天皇杯・皇后杯獲得

男女総合成績(天皇杯) 第一位

女子総合成績(皇后杯) 第一位

※開催県の天皇杯・皇后杯獲得は、茨城大会以来4大会ぶり



<国スポにおける天皇杯順位の推移>

開催年	H 29	H30	R 1	R 2・R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
開催地	愛媛	福井	茨城	中止/延期	栃木	鹿児島	佐賀	滋賀
順位	39位	31位	30位	—	20位	17位	8位	優勝

★障スポ 過去最高のメダル数獲得

金メダル 87個

銀メダル 53個

銅メダル 34個

合計 174個

※過去最高の獲得数



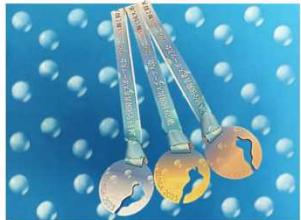
3. 滋賀のこだわり ~みんなが輝く大会に~

「湖国の感動 未来へつなぐ」をスローガンに、「する」「みる」「支える」すべての人が様々な場面で主役として輝き、湖国滋賀で生まれた夢や感動、連帯感が、人々の心に刻まれ、明日への活力、未来への希望として引き継がれる大会

◆環境に配慮し実践する大会

国スポ・障スポMLGs宣言に基づく取組

- 再生繊維100%のスタッフウェア
- 大会メダルをリサイクル金属で製作
- マイボトル持参の呼びかけ



大会メダル



各会場に給水機を設置

◆おもてなしで滋賀の魅力発信

- 地域の特色あふれるおもてなし広場の設置
- 滋賀・びわ湖の食材の魅力を活かした「食」の提供
- ホスピタリティあふれるスタッフの養成



大会を支えるボランティア



滋賀の特産品や郷土料理をPR

◆スポーツの力でつくる共生社会

- 競技会場等のバリアフリー対策(障スポ)

大会初 全会場にカームダウンスペースを設置



- 誰もが大会を楽しめる環境づくり

- 心のバリアフリーを推進



手話でコミュニケーション



会場周辺バリアフリー調査

◆子ども、若者、女性が活躍

- 次世代の選手育成システムの確立

- 子どもたちによる応援のぼり旗づくりや花育て

- 競技補助員・選手団センターとして若者が参画

- 女性アスリート・指導者の活躍サポート



未来につながる
滋賀レイキッズ



花いっぱい運動

(1)環境に配慮し実践する大会

●マイボトル持参の呼びかけ

マイボトル持参者を対象にしたガラポン抽選会など、楽しみながら環境配慮行動につながる取組を実施。

ペットボトル約3万9千本分（各会場での給水量 約19,600ℓ）



●再生繊維スタッフウェア（再生繊維100%）

ペットボトル約8万5千本分

●リユース食器で環境配慮

約 1 万個の再利用

●CO2ネットゼロアクションチェックシート

県内の小学生、事業所等を対象に、省エネ行動を記録するチェックシートを作成・配布。
自発的な省エネ行動について啓発。

670人・38事業所が参加 CO₂削減量11.35t

● J-クレジットの寄附

計381t-CO₂のJ-クレジットを寄附
いただき、式典で排出されるCO₂の一部
オフセットに活用





Mother Lake
Goals
変えよう、あなたと私が



(2)スポーツの力でつくる共生社会

●会場におけるバリアフリーの取組

外部からの刺激や環境変化に敏感な方などが、
気持ちを落ち着かせるために利用する

「カームダウンスペース」を障スポ全会場に設置。



●情報保障の新たなチャレンジ

音声配信サービスを用いた実況配信、国スポでの情報保障席設置
など、障害の有無に関わらず楽しめる工夫を実施。



●来場者アンケートの実施

大会をきっかけに共生社会の実現への関心が高まった 86%



●琵琶湖の形にくり抜かれた大会メダル

視覚に障害のある方も、琵琶湖の形を触って感じてもらえるデザイン。

障スポでは1位から3位の選手および補助者に授与。

(陸上競技における伴走者、ボッチャにおけるランプオペレーター)

裏面には点字
(例:しがしょうすば1位)

(3)おもてなしで滋賀の魅力発信

●式典弁当

- ・県産食材や郷土料理を盛り込んだおもてなしメニュー
- ・食べ切れる分量による提供で**食品ロス削減**
- ・弁当箱の中仕切りに**廃棄物・CO₂発生抑制等**に寄与する素材を使用



●おもてなSHIGAエリア

- ・滋賀の食の提供、記念グッズ販売、お菓子のふるまい等でお迎え



来場者数 国スポのべ約5万1千人、障スポのべ約4万6千人

- ・国スポ総合開会式の日に彦根駅前通りを「おもてなしストリート」として歩行者専用にし、食の提供や競技体験イベントなどを実施 **来場者数 約1万人**



●運営ボランティア、手話・要約筆記ボランティアの活躍

開・閉会式をはじめ、各競技会場での**約1万人**のボランティアが活躍



(4)子ども、若者、女性が活躍

●子ども、若者、女性が作り上げた大会

- ・学校観戦等 約300校、約3万5千人の子ども達の大声援
- ・**高校生**を中心とした競技補助員のべ約1万5千人の活躍
- ・**高校生**を中心とした式典音楽隊、女性リーダーによる式典制作



●レイキッズ卒業生の活躍

レイキッズ卒業生**21名**が本大会に出場し、
12名が入賞を果たした。



●選手団サポーター

次世代を担う若者に、選手との交流を通して
障害理解を深めてもらうことを目的に、
県内大学・専門学校生等およそ**1,700名**
が障スプ選手団のサポーターとして参加



4. 湖国の感動 未来へつなぐ

成果を一過性に終わらせることなく、さらに広めていくために・・・

- ・「する」「見る」「支える」多くの県民が大会に参加 ⇒スポーツの力で滋賀が元気に！
- ・多くの子ども・若者の大会への関わり ⇒滋賀の将来を担う人材の貴重な経験！
- ・選手団サポーターなど障害者のサポートを体験 ⇒共生社会実現に向けた貴重な財産！
- ・県の素材を活かした食の提供や心のこもった歓迎 ⇒全国の方々との交流、滋賀の魅力発信！

スポーツを通じた「ともにいきる 健康しが」 **～レガシーの継承・発展～**

①競技スポーツの振興

- ・競技力の維持・向上と大会で培ったヒト・ノウハウ・環境を県民のスポーツ振興に還元

②大会開催のレガシー

- ・大会を契機に推進してきた4つの取組を大会終了後も継承

滋賀のゴールデンスポーツイヤーズ

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ
2025



国内最大級の
スポーツの祭典！

インターハイ2026



高校スポーツ
最大の大会！

ワールドマスターズゲームズ
2027関西



世界最大級の
スポーツの祭典！

スポーツで
滋賀を元気に！

「する」
レガシーの継承

「みる」
「支える」